

「お姉さんとの共依存生活」お姉さんが甘やかすお話

\*（お姉さんとの出会いからおよそ一年間ほど経っていますので、仲は良く主人公は私がいないとダメなんだという認識

また、主人公は自己管理能力が低いため、お姉さんは必要以上に優しくします）

\*基本的には正面ですが、

お姉さんが抱きつくシーンは少し距離を近めをお願いします

「おかえりーおっと、今日も疲れた顔をしてるね」

「今日はどうする？」

お風呂は沸いてるし、そろそろ帰ってくる頃だと思ったからご飯の支度ももう終わるけど…」

「それともいつものようにギュッて抱きついてあげようか」

「全部？ふふっ、欲張りさんだね

いいよ、じゃあ先にお風呂に入ってきて

多分上がる頃にはごはんも用意できるから」

「食べ終わったらたくさん甘やかしてあげる

さっ、持ち物とかは私が片付けておくから君は身体の疲れをとっておいで」

「今日は良い入浴剤を用意してあるんだ、

だからいつもより長めに湯に浸かってくるといいよ

じゃあね、ごゆっくりー」

「おっ、さっぱりしたねーどうだった？中々いい湯だったでしょ毎日君のために頑張ってるんだから、

その分今日もお姉さんにたーんと甘えてよね」

「でもその前に、まずはご飯からって」

わわっ、君から抱きついてくるなんて珍しいねっていうかはじめてじゃないかな」

「うんうん、今日は一段と素直でお姉さんは嬉しいよ

よしよし、今日もこんなになるまで頑張って君は偉いよ」

「でももう少し待って、

甘えるのはお姉さんがエプロン外したり洗い物した後にね、いい子だから大人しくしててね」

~~~~~

「はい、お待たせーちゃんと待っていてくれたんだね

そんなに甘やかしてほしかったの？」（嬉しそう）

「んんゝ（可愛いものをみて悶えている感じ）

お姉さんも甘やかしたくてうずうずしてるんだからそんな物欲しそうな顔しないでよ」

「お姉さんが今すぐ君のことを受け止めてあげるから

ほゝら！お姉さんの胸においでゝ、いゝっぱいなでなでしてあげる（おっ）つとと、ふふつもうつ、本当に子供みたいだよ？」

「よしよし、そんなにお姉さんが恋しかったんだ

それなら期待に応えてあげないとね」

「でもその前にひとついい？帰ってきた時もそうだけど、

今日はどうしたの？今まで君から甘えてきたことなんてなかったのに」

「いつもの君なら困った顔をして  
仕方なくお姉さんに付き合ってくれてるところだよ」

「もしかして…相当辛いこと(間)あったんじゃないの？」

「なんでもないって…そんな・・・」

少なくともお姉さんにはそんな風に見えないよ？

だって…今にも泣き出しそうな顔してる」

「こんなになるまで我慢するなんて、君はかなり無理をしてたみたいだね」

「たしか初めて君と会った時もこんな感じだったよね

疲れて階段で倒れている君を見た時はさすがのお姉さんも肝が冷えたよ」

「もうあんなことがないようにと思って頑張ってきたんだけど、中々難しいな」

「ああ、ごめん謝らないでいいよ気を遣わせるつもりじゃなかったんだ  
お姉さんが勝手に世話しただけだから」

「言ったでしょ

なんでもないときでも、いつだって頼ってくれてもいいんだよって」

「だから今日くらいは遠慮なく甘えてよ？

ふふっ、戸惑った顔してる、じゃあこうしてあげる

ギョッ(発音あり)」

「ごめんね、君の辛さに気付けなくて  
きっとお姉さんの愛が足りなかったんだよね」

「よしよし、って子ども扱いしすぎ？

自分のことも大事にできないなんて子供みたいなものでしょう」

「全く、君はお姉さんがいないと本当にだめなんだから」

「ほーら、もう一回抱きしめてあげる

こうしておけば自然と気持ちも楽になるし満たされるよ  
だから今だけは君もお姉さんに身を委ねよう？」

「うーん、大丈夫…じゃないよね

それに身体が少し震えてるけど、どうしたの？  
ん？ああ、そっかなるほど」

「（深呼吸）もう…大丈夫だよ君は男の子だもんね、泣くのを我慢したくなるのもわかるよ」

「お姉さんは女の人で、君はそのうえもう大人だ

ここで泣くのはたしかに恥ずかしいことかもしれない」

「でもね、辛いことがあったり、しんどかったりしたら泣いてもいいんだよ？  
それが大人や子供でもあってもね？」

「ましてや性別なんて関係ないよ

だって、君はこんなになるまで普段から頑張っているんだから、  
その分辛いつて気持ち以上に幸せにならないとだめだよ」

「君がそれで構わないと思ってても、お姉さんは嫌なんだ  
だから…ね、今日はたーくさん、お姉さんに甘えるんだぞ」

「何があったか教えてくれるの？

だっ大丈夫？言ってさらに辛くなったりしたら大変だし、  
無理しなくてもいいんだよ？」

「でも…もし君が、少しでも楽になりそうだったら言える範囲で教えてほしいなそうしたらお姉さん、もっと君を甘やかしちゃうかもよ？」

「大丈夫、笑ったり責めたりなんて絶対しない

ありきたりな台詞かもしれないけど、

お姉さんが今まで君の味方じゃない事なんてあった？」

「だから大丈夫、お姉さんがいつだって君を守ってあげるから

あつ、そのまま抱きついていいよその方が君も落ち着くでしょ？」

「よしよし、そのまますつきりするまで泣いていいよ

その間ずっと背中さすってあげるから

落ち着くまで、ちょっとだけお姉さんの話をするね」

「これまではね、君に嫌われたくなくてある程度でとどまっていたの抱きつきたいけど、突き離されたらどうしようって不安になることもあって」

「でもこれからは君が遠慮しても

お姉さんは自分のやりたいように君に優しくするから」

「よしよし、だいぶ落ち着いてきたみたいだね

うん、君が頑張っていることを他の人が知らなくてもお姉さんは知ってる」

「それに、君がいるから私は毎日元気でいられし笑顔になれる それってすごいことだと思わない？」

「君は、そこにいるだけで私を幸せにできる

だから大丈夫、君を必要としている人はここにいる」

「これが綺麗ごとか思ってくれて構わない

でも、お姉さんの想いだけはちゃんと伝わってほしいな」

「うん、ありがとう

こんなお節介なお姉さんでごめんね」

「うん？ なにかな？ 何かしてほしいことがあるの？

ふむふむ…添い寝をしてほしいと

そうだね、君も泣き疲れただろうし、そろそろベッドで横になろうか」

＊ここからは左か左どちらかをお願いします

（編集で反転させます）

「ふふつ、早速遠慮がなくなってきたね

ああ恥ずかしがらないでいいよ、お姉さんがそう望んだんだから」

「でも、君と一緒に寝るなんて初めてだからなんか新鮮

それにさ、普段君から甘えてくることなんてないから、

実はお姉さんかなりこの状況が嬉しかったり」

「でも…やっぱりいつも通りの君がいいなだから今は、ゆっくり休もう」

「そうだねえ…こういう時は子守唄を歌ってあげるのがいいのかな

君もそれで大丈夫？ 他にしてほしいこととかない？」

「わかったじゃあ身体をさすりながら歌うね」

【子守唄歌詞】

ゆりかごのうたを カナリヤ が歌うよねんねこ  
ねんねこねんねこよ

ゆりかごのうえにびわの実が揺れるよねんね  
こねんねこねんねこよ

ゆりかごのつなを木ねずみが揺するよねんね  
こねんねこねんねこよ

ゆりかごのゆめに黄色い月がかかるよねんねこ  
ねんねこねんねこよ

「まだ少し辛そうな顔してるな

そうだ、君が寝付くまで手を握っててあげる

大丈夫、朝までずっと一緒にいるから安心して寝てていいよ」

「起きたらきつと良いことがあるからだから大丈夫  
また明日ね、おやすみ」